

Linux環境へのログイン

1. Linux環境に入る

- XmingをLaunchする。「次へ」で進めば大丈夫
- puttyを立ち上げ、login20.user.keio.ac.jpにログインする。login20-29まで利用可能
 - sshの下のX11のフォワーディングがセットしていることを確認
 - puttyは最初に登録しておくとう便利
 - 解説がhttp://www.hc.itc.keio.ac.jp/ja/com_manuals_unix_in_login.htmlにあるが、これはXwindowを使わない方法なので注意
 - 黒いwindowが上がったら、Linuxマシンにログイン
 - xtermを実行し、別にwindowを立ち上げてこちらで仕事をする
 - これをやらないとXmingがタイムアウトする
 - エラーメッセージなどがみにくい

2. firefoxを立ち上げ、keio.jpからファイルをダウンロード

3. tarの解凍

```
tar xvf XXX.tar
```

Verilogシミュレーションの実行

- シミュレーションのコンパイル
 - iverilog *.v
 - ディレクトリ内に同一モジュールがある時は、ファイルを全て指定する
 - iverilog test_poco.v poco1.v rfile.v alu.v など
 - エラーが出た場合、メッセージを良く読んで！
- シミュレーションの実行
 - vvp a.out あるいは./a.out
 - iverilog 実行時に-oで実行ファイル名を指定することができる。
- 波形の表示
 - gtkwave XX.vcd
 - モジュールを選択すると信号名が表示される
 - これをクリックして選択→Appendをクリックすると波形が表示される
 - スケールがpsecなのでマイナス(－)をクリックしまくってスケールを調整